

人文教育目標

教育目標（人文科目）

人文・社会の教育を通じて、豊かな人間性の形成と幅広い教養を習得させることで、人間的・社会的基盤を備えた実践的技術者を養成するとともに、多様な国際社会で社会人として生きる市民としての資質を育成する。

「言語系（国語）」の教育目標は日本語の正確な理解と運用にある。既習の漢字や語句についての基礎学力を高めるとともに、より広範な知識を獲得するため、第1学年から第4学年まで古典、漢文、現代文を教材として使い、日本語の読解力と表現力の向上を目指した教育が行われている。表現力養成のために作文教育にも力点が置かれている。また、自主的な読書力を培うために作品の鑑賞指導も行われている。

「社会系」の教育目標は、次代を担う社会人として必要な社会的知識・技能の修得と社会的事象に対する幅広い関心の育成にある。国際化の進展と科学技術の加速度的な発達に合わせ、倫理・地理・歴史の学習を通じ、世界の文化・歴史の多様性・複雑性を理解し、社会における多面性及び倫理性をふまえた価値判断を可能にする能力を修得させることで、社会に開かれた工学者・技術者の育成をめざす。また、政治経済が内容とする社会の制度や機能及びその背景にある歴史の学習を通じて、社会全般に関する認識を深めると共に、現実の社会的問題に対する合理的な判断・実践能力の育成をはかることで、社会を担う市民としての資質を育成する。

「言語系（外国語）」の主たる教育目標は、国際社会に対応可能な言語能力の育成である。「英語」においては、英文読解及び英文法の授業を通じて英語の認識能力を育成すると共に、英作文や英会話（オーラルコミュニケーション）の授業を通じて、英語表現能力の育成をめざす。特に、実践的な英語能力の発達を促すため、LL機器の活用や外国人教員による実践的な英語の活用など様々な教育法による授業を行うことで、工学系に必要な英語能力を身につけるとともに、国際社会で必要な英語のコミュニケーション能力の育成をめざす。さらに、「ドイツ語」の授業を通じて、言語認識・言語表現の多面的な能力を育成することで、日本語と英語という単純な言語変換に陥ることなく、生きたコミュニケーション能力の発達を促進する。

「芸術系」の主たる教育目標は、「美術」と「音楽」の授業を通じて、言語外の感性を中心とする領域を通じた認識・表現能力の育成である。音楽の鑑賞・表現や美術造形の鑑賞・表現を通じて、学生の情操教育の促進をめざす。